

# P・I・A シート

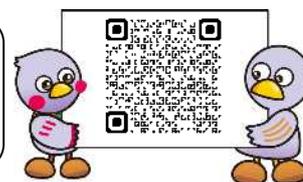
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
小学校 外国語 編 ① 概要

校種・学年	小学校・第5学年	教科等	外国語
単元名	Where is the station?		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お気に入りの場所について、場所や道順を伝える表現を用いて、道順を尋ねたり答えたりすることができる。 <b>〈知識及び技能〉</b></li> <li>・互いのことをよく知るために、地域のお気に入りの場所について、道順やお気に入りの理由などを伝え合う。 <b>〈思考力、判断力、表現力等〉</b></li> <li>・互いのことをよく知るために、地域のお気に入りの場所について、道順やお気に入りの理由などを伝え合おうとする。 <b>〈学びに向かう力、人間性等〉</b></li> </ul>		
本時のねらい	マイタウンのお気に入りの場所について、道案内をすることができる。		
本時の評価規準	<p>【話すこと（やり取り）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Where is ～？/Go straight for ～ block(s)./You can see it on your right(left). など、場所や道順を伝える言語材料について理解している。 <b>【知識】</b> &lt;行動観察&gt;&lt;ワークシート&gt;</li> <li>・言語材料及びその関連語句を用いて、道順を伝え合う技能を身に付けている。 <b>【技能】</b> &lt;行動観察&gt;&lt;ワークシート&gt;</li> </ul>		

## 事例の概要(見どころ)

- ・「学年交流会をし、マイタウンのお気に入りの場所について、道順やお気に入りの理由などを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。」ことを単元のゴールとして、スモールステップを意図的・計画的に設定し、誰一人取り残されない授業を展開しています。
- ・中間指導では、児童一人一人の必要感から、ICT 端末を活用して、自身で学習を選択する場面を設定しています。デジタル教科書を用いたり、自身の活動を録画して見直したりすることで、「個別最適な学び」が充実し、児童は、自分や他者の良さに気づきながら、自身のスキルアップに自信をもつことができ、「自分ならできる」といった自己効力感を育てています。

発行：令和7年3月  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



その他のP・I・Aシートはこちら ↑

# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 小学校 外国語 編 ② 展開

- (1) 目標 マイタウンのお気に入りの場所について、道案内をすることができる。
- (2) 準備 デジタル教材・・・**デ教** 地図記号カード（絵カード）・・・**地力**（**絵力**）  
 完成版地図（ワークシート）・・・**地図**
- (3) 本時の展開（5／8）

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
2	○挨拶をする。 ○月日、時間、曜日、天気を答える。	・指導者は、児童と目線を合わせ、元氣よく挨拶をさせる。 ・全体に質問をする。	
4	○Small Talk ・「What's your favorite～?」を使ったスモールトークを聞き、ペアで会話をする。	・(T-T)JTE と ALT の会話を聞かせる。 ・(T-S)児童へと質問を広げる。 ・T-S の中では、「My favorite ○○～」のやりとりに慣れさせるために、会話活動を広げていく。 ・(S-S) ペアでの会話へつなげる。 ・指導者は、児童が聞き取りやすいように、ゆっくり発音する。	T-Sで活動を示すことで、会話の中で、児童の言いたいことを補助したり、修正したりすることができます。
		<p>【授業改善の視点】 Small Talk の課題設定</p> <p>指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りをする。そのような表現内容の授受を楽しむ中で、児童が既習事項を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にする。</p>	
	JTE : What is your favorite school lunch? ALT: My favorite school lunch is Japanese style meat and potatoes dish. JTE : Japanese meat and potatoes? What? Do you know? Oh, It's Nikujaga. ALT: That' s right. How about you? What is your favorite school lunch? JTE : My favorite school lunch is Japanese fried chicken. (ask students) What is your favorite school lunch?	<p>※やり取りの相手</p> T-T →teacher-teacher T-S →teacher-student S-S →student-student	
2	○Let's Chant ・「Where is the pizza shop?」を言う。	・児童と一緒にチャンツをする。 ・指導者は、児童が既習事項を振り返ることができるよう、しっかりと発音させる。	<b>絵力</b>

ALT: Do you like pizza?  
 JTE : Yes, I do. I like pizza.  
 ALT: Look! This is my town.  
 JTE : Oh! It's a wonderful town. I want to eat pizza.  
 Where is the restaurant?  
 ALT: O. K. Let's go! (guide with students)  
 Go straight for 1 block. Turn left. Go straight for 2 blocks.  
 You can see it on your right. It's by the library.

【授業改善の視点】  
 まねをして言い慣れる「口慣らし」  
 チャンツは、何度も繰り返し練習することができるので、「慣れ親しみ」への初期段階としては、大変有効な活動である。自然な発音やイントネーション、リズムに慣れること、声を出すことへの心理的なハードルを下げるといった利点もある。特に、デジタル教材等を活用すると、イラストや動画が表現理解の助けともなり、児童も楽しみながら活動できる。

- 1 ○Today's Goal  
 ・ I C T 端末に課題を入力する。

- ・ 本時のゴールを板書する。

デ教  
 授業支援  
 ソフト

Today's Goal お気に入りの場所の道案内をしよう。



- ・ 単元のゴールが、「オリジナルマイタウンを作って学年交流会をすること」「お気に入りの場所への道案内だけでなく、理由等も相手に伝えること」を再確認する。その上で、単元のゴールに対して、本時終了時に何ができていればよいのかを、めあてとともに伝える。

I C T 端末を用いて、課題や学習内容を入力し、それを積み重ねていくことで、端末内に自身の学習を振り返ることができるポートフォリオを作成しています。

児童が興味をもち、思わず「聞きたい」「やってみたい」と身を乗り出すような場面を授業の中に設定することで、児童の能動的な学びを促すことができます。本単元のゴールは、児童の言葉から、「他のクラスとも英語でやり取りしたい」との児童の言葉から、「学年交流会」を設定しています。

【授業改善の視点】 ゴールの明確化と段階的な目標設定  
 単元のゴールを明確にすることで、指導者自身が、単元の終末で目指す児童の具体的な姿、つまり単元を通して児童身に付けさせたい力をイメージすることができ、目標の実現に向けての必要な手立ても見えてくる。また、その単元ゴールに向かって、一単位時間で細かいステップを踏みながら段階的にゴールに向かう構成にし、「練習」から徐々に「本当に言いたいこと」へつなげることで、児童が負担感を感じないよう配慮することが大切である。

- 1 5 ○Information Gap  
 ・ 自分の得た情報を友達に伝える。  
 ・ 自分の知らない情報を友達から収集し、地図を完成させる。  
 S1 : Do you have ○○?  
 S2 : Yes, I do.  
 S1 : Guide please.  
 S2 : Go straight.  
 Turn (right/left).  
 You can see it on your (right/left).  
 It's by the ( ).

- ・ 児童を4人ずつのグループに分け、それぞれ違った地図を配布する。  
 ・ ジグソー法を使って、グループ内でやりとりをしながら、地図を完成させていくように伝える。  
 ・ 指導者は、会話に戸惑う児童に寄り添い、手助けをする。  
 ・ 指導者は、スピードを求めたり、全部埋めたりすることよりも、正確さ・丁寧さを求めるように助言する。

ワークシート  
 絵カ  
 地図



ジグソー法を用いて、ねらいとする言語材料を、何度も繰り返し用いて話したり、聞いたりする練習を通して、言語材料の定着を図ることができています。

地図記号を用いて示すことで、他教科での学びを生かしながら、自分の考えを伝えることができています。

1 6

○Activity (道案内)

- ・ペアでお気に入りの場所までの道案内をする。
- ・必要に応じてICT端末などで音声を確認し練習する。

S1: Where is your favorite place?

Guide please.

S1: Go straight.

Turn (right/left).

You can see it on your (right/left).

It's by the ( ).

- ・ALT と JTE によるデモンストレーションを示し、活動の見通しをもたせる。
- ・児童に寄り添い、活動の支援をする。
- ・机間指導をする。
- ・必要に応じて、既習事項の復習を行う。

デ教  
授業支援  
ソフト

デ教  
デジタル  
教科書



ALT と JTE のデモンストレーションの際には、やり取りの文を示さないことで、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組むことができます。

<本時の評価規準>

◎Where is ～? ・ Go straight for ～ block(s). ・ You can see it on your right(left).など、場所や道順を伝える言語材料について理解している。【知識】<行動観察>

◎言語材料及びその関連語句を用いて、道順を伝え合う技能を身に付けている。

【技能】<行動観察>

<評価方法>

授業支援ソフト・発言の様子

<支援方法>

C→B の手立て

- ・ Chants を聞いて、発音を再確認できるようにする。

B→A の手立て

- ・ 自分の音声を録音して聞いてみて、よりよく伝えるための工夫を考えさせる。



【ICT端末を用いて道案内する姿】

【中間指導について】

- 中間指導で、児童が自己調整を図ることができるように支援する。
- 1回目、2回目と同じ相手と行うことで、お互いのセンテンスの変化や進歩に気付きやすいようにする。

【中間指導の手立て】

- ◎見本となるペアのやり取りを示し、本時の活動に必要なセンテンスを確認する。
- はっきりと発声し、正確な道案内を行うために、繰り返し練習するように促す。
- さらによいやりとりを行うために、どんな点に気を付けたらいいのか、考えさせる。
- 児童の個々の活動の様子を机間指導し、課題解決のために工夫している児童の活動を見取り、全体へ聞こえるような声でつぶやく。

【個別への対応について】

- 必要に応じて、デジタル教科書、ICT 端末などで音声を確認させ、練習させる。
- 個々に応じた中間指導を行う。

指導者は、机間指導の中で、「見本となるペア」を選出し、教室内で共有した上で、個別学習の時間を確保しています。  
(次ページ参照)

【外国語教育における ICT 活用の利点 一人一人の能力や特性に応じた学びの機会の確保 (個別最適な学び)】



自分のやり取りを録画・視聴し、気づいた点などを振り返り、ブラッシュアップしています。また、隣同士でアドバイスし合う姿もあります。



個別学習ではイヤフォンを用意して、デジタル教科書を用いて、音声を繰り返し再生し、発音や、やり取りの仕方の練習を行っています。

【授業改善の視点】視聴覚教材・ICT活用

外国語教育の授業において最も重視すべき課題は、「いかにコミュニケーションの機会を保証し、英語を使うことができるか」である。ICTの活用は、「生きたコミュニケーションを経験するのに必要な手立て」の1つということを念頭に、活用のねらいを明確にすることが重要である。



児童は、中間指導でのブラッシュアップを経て、再度言語活動に取り組むことで、自信を持って取り組むことができ、自身の変容を感じることができています。



教師は、机間指導を行いながら、個別の困りごとの解消や、児童一人一人の学習状況に合った「ステップアップ」の視点を伝えています。

【授業改善の視点】「言語活動」の設定 (道案内)

身近なまちや地域での場面設定を工夫し、場面を意識させながら、その場面で用いる特有の表現を聞いたり話したりする言語活動を、繰り返し行わせることが大切となる。このような活動を行うことで、生活の中で出会う言語の使用場面を児童自ら適切に判断し、場面にあった表現の音声が想起できるようになることが期待できる。

2

○本時のまとめをする。

・本時のねらいに照らしてまとめをする。

3

○本時の活動の振り返りをする。  
・ICT端末に振り返りを記入する。

・振り返りの観点を示し、児童が話すことについて、成長や課題について考えられるようにする。  
・単元のゴールを再度示し、次時の活動の予告をする。



「本時のゴール」を入力したワークシートに、「本時の活動の振り返り」を入力することで、それが蓄積されていき、ポートフォリオとして、学習改善・指導改善に活用することができます。



【授業改善の視点】「振り返り」への称賛

本時のねらいに照らして、児童自身が、自分の向上したことや学びのよさを確認、実感できるように、教師は称賛することが大切である。

○挨拶をする。

○全体に挨拶する。

自身の学びを振り返り、「レベルアップできてよかった。次は、目線を合わせたり、表情も気を付けたい。」とクラス全体に発表しています。

デ教  
授業支援  
ソフト